



図5 かはだれそ だれそかれ

木枠にグラスオーガンジー・アクリル板にメッキ塗装 寒天 オーロラリフレクター ver:2022屏風style H187.5cm × W214.2cm × D187.5cm (可変) 2022年
中央のリングライトより覗くと再帰性反射材の効果で屏風の景色が一変する。



図1 かはだれそ だれそかれ

木枠にグラスオーガンジー・アクリル板にメッキ塗装寒天 ver:2021衛立style H187.5cm × W214.2cm × D187.5cm 2021年
左右3枚ずつ向かい合わせに設置することで合わせ鏡のようになり、実像と虚像が入り乱れる一種の異空間を演出



図6 かはだれそ だれそかれの一部分

透かしを利用して奥の作品を感じ取れるように設置

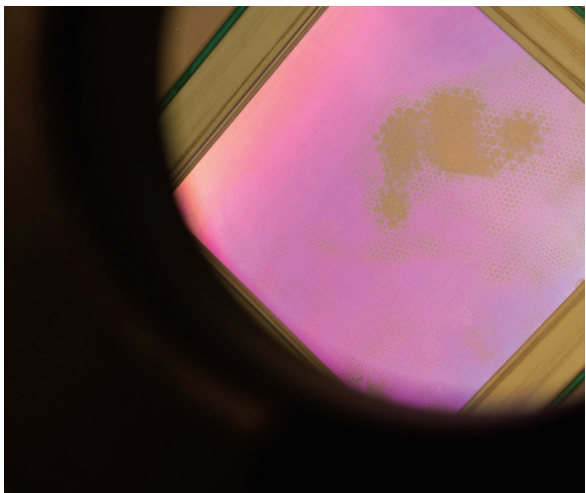


図7 神奈備 33.722199, 135.982721

H333mm × W333mm 2021年
木枠にグラスオーガンジー、オーロラリフレクター 蓄光顔料



図4 神域山水 H628mm × W200mm 2021年

木枠にグラスオーガンジー 墨 エフェクト顔料 金泥 蓄光顔料



図2 かはだれそ だれそかれの外側の外光を受ける側

外光を受けて鏡面になる



図3 かはだれそ だれそかれの外側の屋内側

屋内側は透けた様子が垣間見れる。

2021年度の特別制作研究助成を受けて行った表現研究の成果として行った展示「なにごとの おわしますかは しらねども」の2021年と2022年の展示風景である。
本表現研究は西行の「なにごとの おわしますかは しらねども かたじけなさに涙こぼるる」を題材にしたものである。本課題を「天候や時間による変化」と「可変式であり移動式」「思想の現代様式での再解釈」として研究制作を行った。メインとなる作品「かはだれそ だれそかれ」(図1、5)は屏風や衛立をイメージし、アクリルと木枠、グラスオーガンジーを用いて現代的な装いに仕立てた。アクリル板にはメッキ塗装を施しハーフミラーにし、空間の光やその日の気象や時間帯によって自身が映り込んだり、アクリルを隔てた向こう側が見えたりするようにした。図4の「神域山水」温湿度などの気候のグラフを墨とエフェクト顔料で山水画に見立て表現した作品。図7の「神奈備」は自然物の御神体のオーラを表現した作品で、再帰性反射材と蓄光顔料を組み合わせた作品で特定の光源環境下でのみ図像が表れる作品。このように多角的なアプローチで表現を試みた表現研究である。